

参考資料 2－3

火山噴火緊急観測検討作業部会（第1回）

H29. 7. 21

口永良部島に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

2014年(平成26年)		
8月3日	3日 12時24分に新岳で噴火。噴石が山頂火口から約1kmの範囲に飛散し、火碎流が新岳山頂火口の南西側から西側にかけてと東側に流下した。	
8月3日	噴火警戒レベル1 →3	3日 12時24分頃噴火。今後、噴火活動がさらに活発となる可能性。火口から概ね2kmの範囲で大きな噴石に警戒。
8月7日	噴火警戒レベル3 切替	3日の噴火の火山灰分析の結果、マグマが直接関与していた可能性。今後、マグマが関与した噴火が発生の場合、火碎流の可能性。火口から概ね2kmの範囲で大きな噴石に警戒。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火碎流に警戒。
8月8日	拡大幹事会	3日 12時24分頃の噴火はマグマが関与したと考えられる。その後も火山活動が高まった状態。今後も噴火が発生し、火碎流を伴う可能性。
10月23日	第130回連絡会	噴煙活動等が継続しており、今後も8月3日と同程度の噴火が発生する可能性。
2015年(平成27年)		
2月24日	第131回連絡会	火山活動は活発な状態が継続。火山ガス観測や地殻変動観測では、今後、火山活動がさらに高まる可能性があることを示す変化。火山活動の推移を注意深く見守る必要。
5月29日	29日09時59分に爆発的噴火。	
5月29日	噴火警戒レベル3 →5	29日09時59分に爆発的噴火。火碎流が向江浜付近で海岸に達する。火碎流の到達が予想される屋久島町口永良部島居住地域では厳重な警戒(避難等の対応)。
5月30日	拡大幹事会	29日09時59分に火碎流を伴う爆発的噴火発生。この噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられる。今後も同程度の噴火が発生する可能性。 <u>口永良部島総合観測班設置。</u>
6月15日	第132回連絡会	火山活動は活発な状態継続。今後も5月29日と同程度の噴火が発生する可能性。
6月18日	18日12時17分頃、16時31分頃噴火。	
6月19日	19日09時43分噴火。	
8月21日	拡大幹事会	(第132回火山噴火予知連絡会の評価から変更なし)
10月21日	第133回連絡会	5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり火碎流に警戒が必要。新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火碎流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒(避難等の対応)。
10月21日	噴火警戒レベル5 切替	火山活動が高まる傾向はみられないことから、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低い。火口から概ね2kmの範囲及び火碎流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5km範囲で、厳重な警戒(避難等の対応)。
2016年(平成28年)		
2月17日	第134回連絡会	引き続き噴火の可能性があり、噴火に伴う大きな噴石及び火碎流に警戒。
6月14日	第135回連絡会	2015年5月29日の噴火前から続いている島の膨張状態が収縮に転じる。2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は更に低下。火口から概ね2kmの範囲で、大きな噴石及び火碎流に警戒。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火碎流に警戒。
6月14日	噴火警戒レベル5 →3	火山活動は低下。新岳火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石及び火碎流に警戒。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火碎流に警戒。
10月4日	第136回連絡会	2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、火山性地震や火山性微動が時々観測されており、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、2014年8月3日の噴火前より多い状態で経過していることから、引き続き噴火が発生する可能性。

御嶽山に関する火山噴火予知連絡会の活動経過

2014年(平成26年)		
9月27日	御嶽山で噴火。火碎流が南西方向に3km以上流下。噴煙は火口上約7,000mと推定。	
9月27日	噴火警戒レベル1 →3	27日11時52分頃、御嶽山で噴火。火口から4km程度の範囲で大きな噴石等に警戒。
9月28日	拡大幹事会	27日11時52分頃に火碎流を伴う噴火が発生。その後も火山活動が高まった状態。今後も噴火が発生する可能性。
9月28日	噴火警戒レベル3切替	27日の噴火以降、山頂火口からの噴煙活動が活発な状態。引き続き火口から4km程度の範囲で大きな噴石と火碎流に警戒。
10月23日	第130回連絡会	火山活動には低下傾向がみられるものの、今後噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火碎流を伴うような噴火が発生する可能性。 <u>御嶽山総合観測班を設置。</u>
2015年(平成27年)		
1月19日	拡大幹事会	火山活動は引き続き低下。現状で2014年9月27日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。火口列からの噴煙活動や地震活動は続いている、今後も小規模な噴火が発生する可能性。
1月19日	噴火警戒レベル3切替	火山活動は低下。引き続き火口から概ね3kmの範囲で大きな噴石と火碎流に警戒。
2月24日	第131回連絡会	火山活動は低下してきており、2014年9月27日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。火口列からの噴煙活動や地震活動が続いている、今後も小規模な噴火が発生する可能性。
3月31日	噴火警戒レベル3切替	火山活動は低下。火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石と火碎流に警戒。地獄谷方向では火口から概ね2.5kmまで火碎流に警戒。
6月15日	第132回連絡会	火山活動は低下した状態が継続。噴煙活動や地震活動は続いている、今後も火口周辺に影響を与える小規模な噴火が発生する可能性。
6月26日	噴火警戒レベル3 →2	火山活動は低下。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒。
10月21日	第133回連絡会	火山活動が低下した状態が続いている。火口列からの噴煙活動や地震活動は続いている、今後も小規模な噴火が発生する可能性。
2016年(平成28年)		
2月17日	第134回連絡会	火山活動は緩やかな低下傾向が続いている。火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性。
6月14日	第135回連絡会	火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性。
10月4日	第136回連絡会	火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性。